

第2次千葉市文化芸術振興計画 事業視察シート

視察者	桜井 まどか
-----	--------

基本施策名	基本施策1_文化芸術に親しむ市民の裾野を「広げる」 (2)参加・体験活動の推進	
事業名	美術館講座 (市民美術講座) 『ジャポニズムを通して浮世絵を見る』	
実施主体	指定管理者	(名称) 千葉市教育振興財団
会場	千葉市美術館	
日時	令和4年2月6日(日) 14時00分 ~ 15時30分	

【チェックポイント】※以下の点に着目して評価してください。

評価指標2 戦略的な視点・基本姿勢との適合	
(1)市民主体	<p>■ 妥当 □ ほぼ妥当 □ 工夫により改善 □ 見直し</p> <p>(評価の理由) 市民美術講座は美術館11階行講堂にて開講され、企画展の全7つのテーマに添って、代表作の投影と進行速度も適切だった。美術館の個性である「浮世絵」に関して、開催に至るまでの海外美術館や画家の子孫らとのコミュニケーションにも触れ、独自の活動が表された内容だった。講座は閉会から退出までを含めて約90分間である旨が冒頭に告げられたが、企画展チラシやサイトには記載がなかった点は残念。事前に所用時間も分かれれば、受講後に理解を深めるために当日のみ可能な再入場での鑑賞や、来館前後の予定も立てやすく、受講理由のひとつにも繋がると感じた。</p>
(2)こども・若者	<p>□ 妥当 ■ ほぼ妥当 □ 工夫により改善 □ 見直し</p> <p>(評価の理由) 市民美術講座は80席満席、50代以降の熱心な参加者が殆どで、現状はシニア層向けとなっている。浮世絵と、ジャポニズムの影響を受けた海外作品が並列で展示されているコーナーでは自分の目で確かめる楽しさもあり、YouTubeで講座アーカイブが残されると新たな層の取り込みにも繋がるのではないかと講座タイトルにも、こども・若者へ訴求したフレーズがあれば市民講座にも構えずに参加しやすい。企画展開催中はツイッターによる関連投稿が毎日更新されており、1Fミュージアムショップでは、展示作品を模したアイシングのクッキーなどのオリジナル・グッズも店頭に並び、いわゆる「インスタ映え」も意識しているため20-30代女性の目を惹き、美術館と日常を近づけていた。</p>
(3)領域の広がり	<p>■ 妥当 □ ほぼ妥当 □ 工夫により改善 □ 見直し</p> <p>(評価の理由) 企画展の作品に登場する楽譜をもとにした演奏会が1Fさや堂ホールで開催されたり、関連ワークショップなどもあり、浮世絵を核として美術館全体が多角的な視野と世代に向けて、生き活きと進行している。鑑賞・体験・表現などを楽しむための受け皿が用意されている。</p>

その他(評価すべき点・改善すべき点・気づいた点など)

※評価指標1(3)他の基本施策への波及に該当する取組が見受けられた場合はこちらに記載してください。
 コロナでのイベント開催としての対策で、時間を区切った入場や2列ずつの退場がアナウンスされ、入退場が整然と行われた。入り口では学芸員の方の声がけやアイコンタクトがあり印象が良い。窓は細く解放され空気の入替えも感じ、安心して受講する場づくりが行われていた。